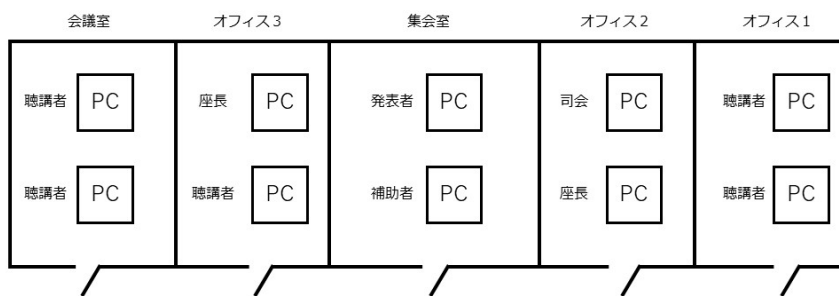


日本法医画像研究会第19回勉強会・第17回群馬Ai研究会を開催して

群馬大学大学院医学系研究科法医学講座が当番校となり、令和3年3月13日午後1時から午後4時20分に、Zoom会議システムを利用して、日本法医画像研究会第19回勉強会と第17回群馬Ai研究会を同時開催させていただき、当日の参加者は84名でした。令和2年3月に群馬大学が当番校となり、法医画像勉強会・群馬Ai研究会を開催予定で、準備を進め、参加予定者は50名程度でしたが、新型コロナウイルスのため、中止となりました。Zoom会議システムを利用したことで、参加者が増えたようにも思えました。

会の内容は特別講演1題、一般口演8題でした。特別講演では群馬中央病院放射線科平澤聡先生から画像診断の基本のご説明がありました。画像の基本を見直すことで画像の解釈に幅が広がったと思います。法医解剖従事者にとって今後の参考になるものでした。次に、一般口演では、6機関から裁判や鑑定書での死後画像の利用事例の提示を通して、効果的な死後画像の利用方法が紹介されました。裁判や鑑定書での死後画像の利用に関しては、日本では実際にどのように実践されているか分からず、悩むところでしたが、発表された死後画像の利用方法には学ぶところが多く、今後の参考になるものでした。

ところで、Zoom会議システムを利用した勉強会の主催には不慣れなため、また、コロナ感染症対策として、下記の図のように人員を配置しました。広めの部屋で発表者が口演を行うようにしました。また、司会者や座長は別室からの参加としました。



最後に、この勉強会・研究会の準備と当日の司会をご担当いただきました、高橋遥一郎先生には厚く感謝御礼申し上げます。また、学会開催にあたり、ご支援いただきました、法医画像研究会の諸先生方にも感謝御礼申し上げます。今後も日本法医画像研究会が発展することを祈念しております。

小湊慶彦